

「被爆71周年 2016 平和行動 in 広島・長崎北海道統一代表団」を派遣

原子爆弾が投下されて71年目を迎える中、連合北海道・原水禁北海道・北海道友愛KAKKINは8月4日～9日の日程で、のべ95名を「北海道統一代表団」として広島・長崎に派遣した。

8月5日の平和ヒロシマ集会で主催者挨拶にたった連合本部神津里季生会長は、「連合は本年のテーマを『恒久平和の実現に向けて 核兵器廃絶への新たな一歩を』とした。その意味から、本年5月27日、オバマ大統領が現職のアメリカ大統領として初めて原爆被爆地広島に足を踏み入れたことは、原爆がもたらす惨禍に対する認識、そして核兵器廃絶に向けた強い意志を示されたものであり、連合としても評価するとともに、この惨劇を二度繰り返さないその決意を示すためにも、アメリカ政府に対して長崎への早期訪問を要請する。」とした。また、アメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国が保有する核弾頭が今も世界に約1万5,700発も存在していること、昨年の国連総会本会議での日本が提出した核兵器廃絶決議案の採択など国際的な状況にもふれ、「人類が核兵器の脅威から解放されていない中、廃絶に向けた具体的な展開が見られない。さらに今年の1月には北朝鮮が水爆実験を強行したことは、極めて遺憾である。核兵器廃絶に向けた国際世論自体は広がりを見せているが、連合は世界で唯一の被爆国のナショナルセンターとして、これまで以上に核兵器廃絶に向けた国内世論の喚起に注力するとともに、核兵器の悲惨さと非人道性を広く世界の仲間に訴えていく。」と強い決意を述べた。

続く「被爆者の訴え」では、今もなお多くの病気を抱えながら語り継ぎ、またオバマ大統領が訪問された際に、被爆者を代表してお言葉を交わされた坪井直さんが登壇し、当時の惨状を語り、戦争がない社会の大切さを切に訴えた。



続く、8月8日の平和ナガサキ集会では、連合本部神津会長がヒロシマ集会に続き主催者挨拶にたち「原爆投下からすでに71年が経過し、その脅威を身をもって体験された方々の高齢化が進んでいる。こうした現状を踏まえ、連合は若い世代を対象に戦争の歴史や知識、語り部の皆さんの思いを継承することを目的に様々な取り組みを展開している。世界の核軍縮を進めていく上で、世界で唯一の核兵器被爆国日本が、核兵器廃絶に向けた世論形成に対して果たすべき役割は極めて大きいものがある。その中でも、私たち労働組合が国際的な運動を牽引していかなければならない。」と訴えた。

続いて、「次世代への継承」として、第19代高校生平和大使22名が紹介された。連合北海道と退職者連合で構成する北海道高校生平和大使派遣実行委員会で選出した、下町舞さんと和泉砂絵さんも仲間とともに登壇し、被爆者や戦争体験者の方々から平和のバトンを受け継ぎ世界に広げていく決意を表明した。



また、ピースフラッグリレーとして、連合長崎から連合北海道・根室集会へと平和の思いとともに旗が引き継がれた。旗をしっかりと受け取った連合北海道大出彰良副会長は「今まさに、この旗に込められた沖縄・広島・長崎の思いを、そして今日この集会に集まった3千人を超える多くの仲間の皆さんの思いを確かに引き継がせていただいた。ぜひ根室集会に参加して頂き、皆さんの目で戦争により奪われ、不法占拠されている領土を見て頂きたい。」と述べた。



参加者はこれらの集会を通し、戦争の実相、原爆の恐怖を身をもって知る被爆者の言葉の重さを受け止め、平和の実現のため、これを語り継いでいかなければならない責務があることを強く感じた。

統一代表団は広島・長崎においてピース・ウォークに参加するなど、それぞれ学習を深めるとともに、広島では北海道独自企画として原爆死没者慰霊碑への献花を、長崎では被爆地「淵中学校」への墓参を行った。

連合北海道はこれからも核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざし、職場や地域における核兵器廃絶運動に粘り強く取り組んでいく。

